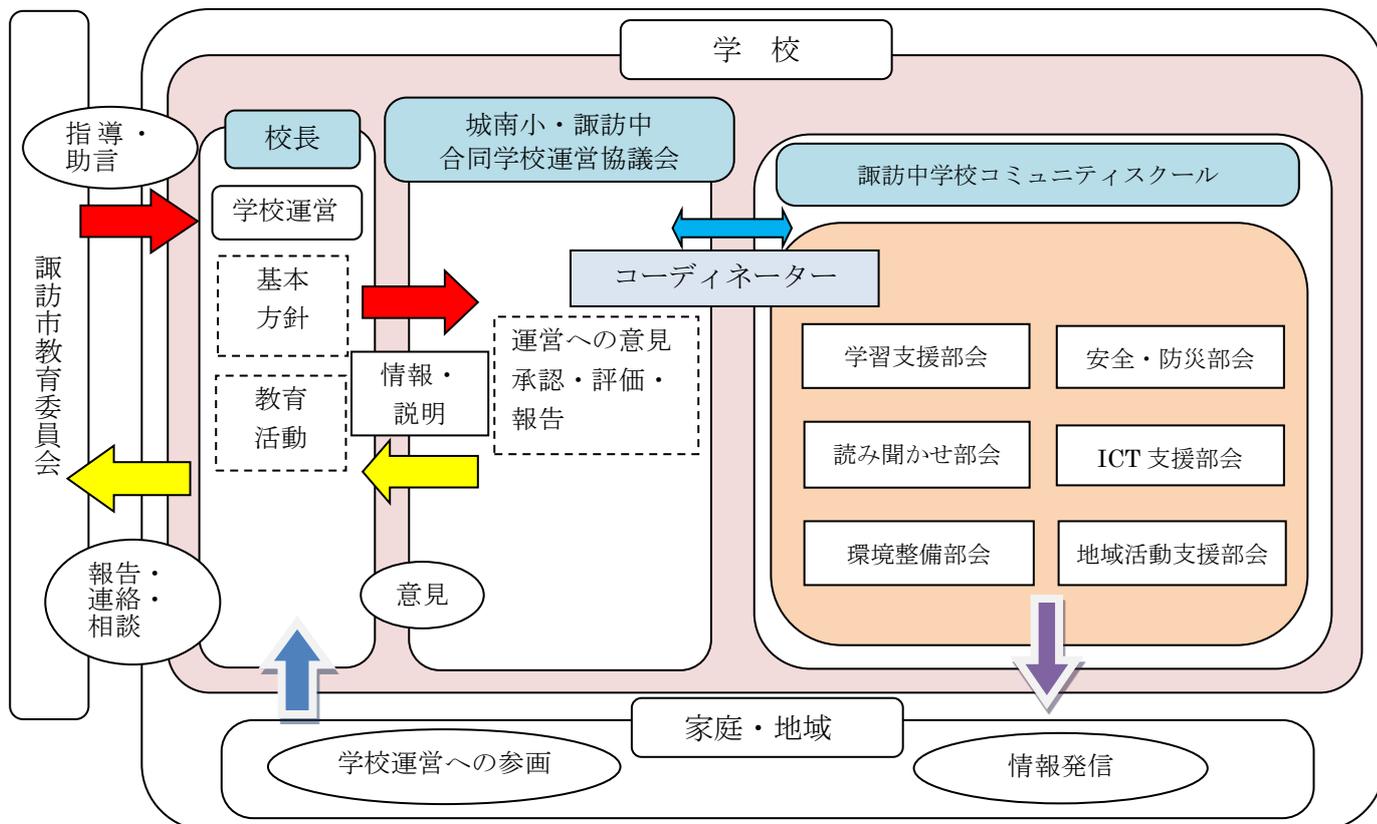


## 8 諏訪中学校

### 1 組織図



### 2 城南小・諏訪中合同運営協議会の歩み

城南小学校と合同運営協議会を設置しており、小学校のボランティア代表、中学校のボランティア代表等と一緒に運営協議会に参加し、諏訪中学校区のコミュニティスクール（以下CS）の方向性を共有している。

#### (1) 第一回合同運営協議会（於：諏訪中） 令和7年4月22日

- ① 令和7年度 城南小・諏訪中 学校教育目標及びグランドデザインの説明と承認
- ② 児童生徒と委員との小グループでの懇談

テーマ：「どんな学校・地域にしていきたいか」「地域の人と一緒にやりたい活動」

- ③ 城南小・諏訪中学区の子どもの姿から感じること・課題、提言等

#### 【小グループでの懇談について】

「具体的な実践に向けて、児童生徒の意向を尊重し、一緒に進めていきたい」というコーディネーターの思いから、昨年度より第1回の運営協議会で、児童会・生徒会の役員と運営協議会委員、学校職員が一緒になって、話し合いを行っている。「どんな学校・地域にしていきたいか」「地域の人と一緒にできる活動」をテーマに話し合った。児童生徒からは「市役所など地域で挨拶をしたい」「昨年行った絵手紙など、地域の方との交流を増やす」、地区の方からは「地区の行事に子どもに来てほしい」など、それぞれの立場からの思いを共有し、世代を越えた人との交流の機会となり、生徒にとっては地域に目を向けるきっかけとなった。



- (2) **第二回合同運営協議会**（於：諏訪中学校） 令和7年9月2日  
 運営協議会の前に、委員の方に授業を参観していただき、現在の中学生の学びの様子を見ていただいた。「グループでの話し合う時間が多く取られるなど、以前と学び方がずいぶん違っている」などの感想が聞かれた。
- ① 第1回学校運営協議会でのグループワークを受けての検討と今後の取組について
  - ② 小グループによる熟議と共有
- (3) **第三回合同運営協議会委員会**（於：城南小） 令和8年2月13日
- ① 令和7年度 城南小・諏訪中 学校自己評価の報告と来年度の方向について
  - ② 熟議 来年度の学校運営への提言と承認

### 3 地域学校協働活動の実際

#### (1) 学校支援部会

組織図にあるように、諏訪中学校のCSには6つの部会が設置されている。お互いの活動の様子を知り、ボランティアの方の横のつながりを広げるために、中学校でのボランティアに関わる団体の代表者による学校支援部会が行われている。また、情報共有を簡単に行えるように、ICTの活用に取り組んでいる。利用者の登録などアプリの運用は、ICT支援部会の方に行っていただいている。合同運営協議会や学校支援部会の開催通知などの発信を簡単に行うことができ、事務作業の軽減ができたり、部会の活動の開催予定を発信したりすることができた。それぞれの活動内容の情報共有をさらに充実させ、活動に参加する方を広げたい。

- ① **第一回学校支援部会** 令和7年5月26日
  - ア 各部会の活動計画を共有
  - イ 情報共有の方法（ICTを活用（LINE WORKS）した情報共有）
- ② **第二回学校支援部会** 令和7年11月14日 中止  
 ICTによる情報発信を進めていたため、中間報告にあたる支援部会を中止した。
- ③ **第三回学校支援部会** 令和8年1月22日
  - ア 各部会の取組報告
  - イ 来年度の日程、内容等



#### (2) ボランティア紹介の会 令和7年4月22日

ボランティアと生徒とが直接関わることが少ない活動もある。様々な方が学校に関わっていることを生徒が知るために、各部会の活動内容をボランティアの方に説明していただいた。コーディネーターは「地域の人と生徒の皆さんが一緒になって、地域とともに作り上げる学校を目指して活動していきたい」と生徒に伝えてくださり、生徒にとってはボランティアの皆さんがどのような活動をしてくださっているのか、どのような思いをもって活動してくださっているのかを理解する大切な会となった。また、生徒会長が昨年参加した活動を交えて挨拶したり、諏訪中が大切にしている合唱（校歌）をボランティアの方に聞いていただいたりした。

#### (3) 諏訪学・学習支援への取り組み

- ① **ニッコウキスゲ植栽ボランティア**（有志・7月5日）・**種植え**（1学年・11月8日）  
 小和田牧野農業協同組合の方に声をかけていただき、城南小学校と合同でニッコウキスゲ植栽ボランティアの募集を実施。有志の参加者を募って行った。植栽終了後の会では、ボランティ

アの活動履歴を記録するカード「わたげ帳」のことも触れた。生徒が学校外のボランティア活動に参加することで「地域の中の私」という意識の醸成につながっていくことを期待している。

また、11月には、1年生が霧ヶ峰の自然やオオカミがいなくなったためにニホンジカが増えてニッコウキスゲが食べられてしまう食害などを学んだ後、ニッコウキスゲの種を蒔いた。霧ヶ峰高原の再生に携わる小和田牧野農業協同組合の皆さんの「ふるさと諏訪を大切にしたい」と感じた。



## ② テスト前学習会・夏休み学習会・面接練習

テスト前の部活動がない3日間の放課後を利用して、学習支援ボランティアに生徒の自主学習をサポートしていただいた。また、夏休み学習会には学習支援ボランティアの方々に加え、諏訪二葉高校の生徒も学習支援に参加した。また、城南小学校の夏休み学習「ステップアップタイム」では、中学生が小学生への学習支援サポートに出向いた。



## ③ 家庭科裁縫授業サポート

1学年の家庭科では手縫いの学習を行った。「ティッシュペーパーのカバー」「小物入れ」「ブックカバー」から自分の作りたいものを選んで作る学習を進めるにあたり、コーディネーターをお願いしてシニア大学の卒業生の方に手縫いのサポートをするボランティアに入っていた。生徒は困っていることがあると、ボランティアの方に確認することができるので、自分の製作をどんどん進めることができた。ボランティアに参加された方が「専門家ではないけど、来られるときくらいは手伝います」と笑って話される姿が印象的だった。地域の方の力を借りることで、生徒の学習がより充実したものになっている。



## (4) 環境整備

### ① 植え込みの剪定 令和7年6月8日

本校の周りにはつつじや桜、梅、松などたくさんの樹木があり、自然豊かな環境である。庁務員の作業だけでは剪定が間に合わないため、職員とコーディネーター、ボランティアの方と一緒に植木の剪定講座を行った。「講座」としているのは、学校の樹木の剪定に参加した地域の方が、ハサミやバリカンの使い方を覚えて、自宅の庭木の剪定に生かすなど、学校での活動と地域の方の日常生活につながりをもてることを期待しているため。今回は7名のボランティアの方に参加していただいた。通りがかった近所の方々から「(植木の形が)真ん丸ですごいですね」「いつも散歩で(植木を見ると)、清々しい気持ちになります」と声をかけていただいた。ハサミの使い方のコツを教わっ



たり、初めて機械での剪定に挑戦したりしながら作業が進んだ。普段、造園業をしている専門家の方に「下枝は一度切ると生えてくることはないの、下枝を切るのは3年悩んでから」など、専門的なことを聞くのも、ボランティアをやっていて楽しいことのひとつ。途中休憩のおしゃべりも楽しいひと時。学校のことを手伝っていただくだけでなく、CSの活動が地域コミュニティの充実の場にもなる可能性を感じた。



## ② 花壇づくり 令和7年7月10日

生徒会環境福祉委員とボランティアの方で、昇降口前の花壇に花の苗を植えた。生徒が植える前に土を耕したり、生徒に植え方のアドバイスをしたりと、花を植える経験の少ない生徒でも活動できるようサポートしていただいた。



## (5) 読み聞かせボランティア「Senの風」

### 読み聞かせ・朗読公演・中学生による小学生への読み聞かせボランティアの練習サポート

平成17年に発足した「Senの風」のボランティアによる月1回の読み聞かせが継続して行われている。10月7日には、サン・テグジュペリの「星の王子様」の朗読公演が行われた。生徒の感想には、「音楽と映像と朗読が合わさることで、どんどん物語の中に引きこまれてしまいました」「静かな空間に物語の音が響き渡る時間がとても心に残りました。読むだけでなく、聴くことでこんなにも感じ方が変わるという驚きもありました。とても素敵な時間だったので、Senの風の皆さんの朗読を聴くことができよかったです」など、音楽や映像を朗読と組み合わせる工夫に感動した様子が見られ、本の世界に浸り込む素敵な時間になった。



また、城南小へ読み聞かせボランティアに行く生徒会図書委員のために、夏休みに読み聞かせの練習もサポートしていただいた。



## (6) 防災講座

9月1日は、防災の日に合わせて、防災講座を実施した。諏訪防災ネットワークに所属している安全・防災部会の代表の方に調整していただき、諏訪市危機管理室、消防団、諏訪防災ネットワーク、消防署、諏訪応急手当普及委員会など様々な方の協力で、学年別に行った。



1学年は、テント内に煙を充満させ、視界が確保できない状態の中を歩く体験や、水消火器での消火訓練を行った。煙体験は思った以上に周りが見えず、体験した生徒は驚いていた。また、水が入ったダミーの消火器を使った消火訓練も、最初は水を射出するまでに手順がたくさんあり戸惑っていたが、実際に消火器を使ってみる貴重な体験となった。



2学年は、ハザードマップを見ながら、自分の家はどのような区域にあたるのか見て、災害時の自分の避難の方法や災害時に備えることなどを事前に考えておく「マイタイムライン」の作り方を学んだ。

3学年は、救命講習会を行い、心臓マッサージの仕方やAEDの使い方を練習した。



## (7) 広報

CSの活動の様子をまとめた掲示物の作成。校長室前の廊下に掲示し、来校される方や授業参観などで訪れる保護者の方に活動を紹介した。

## (8) その他

### ① 諏訪市社会福祉協議会と連携したボランティア意識の醸成

昨年度、諏訪市社会福祉協議会と生徒会が一緒になって作った、ボランティアの活動履歴が見える化する「わたげ帳」を、今年度も作成することになった。この活動が学校の中だけの活動ではなく、外部の団体と連携していることを生徒が意識できるよう、市社協の方に全校集会に参加していただき、「わたげ帳」作成の経緯や市社協が感じている地域課題のこと、ボランティア活動を通じて中学生に地域貢献をしてもらいたいという願いをもっていることなどを話していただいた。

#### 【わたげ帳に書かれた生徒会の思い】

「このわたげ帳には、『ボランティアをすることによって、ふわりとしたわたげのような あなたの優しさが飛んでいきますように』という意味をこめました。」

※「思いやり」や「優しさ」が柔らかく広がっていくイメージから連想される言葉として「わたげ」というネーミングが決められた。

昨年ボランティアに参加した生徒は、「ボランティアに参加することで、地域の方と関わり合いながら、地域の方のために貢献できるということを学びました」と、参加した感想を発信した。また、生徒会長は「ボランティア意識が高まること、校外での交流も大切にしてほしいとの思いから、今年も『わたげ帳』を作成しました。ボランティア活動の中には学校では経験できない活動もあるので、たくさんチャレンジしてほしいと思います。」とボランティア活動の促進を呼びかけた。



### ② 諏訪中 CS ラボ開催

- ・第1回クラフトテープでのかごづくり（7月7日、7月10日）
- ・モルックをやってみよう（7月18日）
- ・第2回クラフトテープでのかごづくり（10月2日、10月7日）
- ・「しあわせ宅配便」絵手紙講座（10月6日）

CSラボは、「生徒が地域の方から教わったり、地域の方と一緒に活動したりすることを通して、人と人との交流をしよう」「普段はできない体験を行う機会にしよう」という目的で、昨年度から始めた活動。生徒と地域の方との交流が目的なので、地域の方に生徒が教わるだけという形式ではなく、地域の方が生徒と一緒に活動するものにしようと企画した。

かごづくりでは、地域の方と生徒が、机を並べて同じようにかごづくりを行った。地域の方が生徒から教わる場面もあり、地域の方から「中学生は手先が器用」「一緒に制作を楽しめました」との感想が聞かれた。生徒の中には「初めて作ってみたが楽しかった。今度は友達も誘って参加したい」と話す生徒がいて、秋に第2回をやろうかという話が自然と出てきた。生徒たちの「やりたい!」という気持ちを実現できる場に、CSラボがなりつつあると感じた。

モルックでは、生徒、地域の方、コーディネーター、学校職員で4チームを作り、試合を行いながらモルックのルールを学んだ。生徒は「見たことはあってモルックを知ってはいたけど、実際にやってみるとなかなか思いどおりに倒れなくて面白かった」と、モルックの魅力を感じた様

だった。また、地域の方からは「普段中学生と関わる機会がないから、一緒にやることができ楽しかった」と感想が聞かれ、中学生と地域の方との交流の場になっていた。

「しあわせ宅配便」絵手紙講座は、昨年度、小和田地区社会福祉協議会から「一人暮らしのお年寄りに地区社協がカイロなどを配るときに、子どもたちからの手紙を渡したい」と相談を受けたのが始まり。ただ手紙を書くのではなく、絵手紙講座で生徒が絵手紙を描く体験をし、その絵手紙をお年寄りへのプレゼントにしている。普段は講師から教わっている地域の方にCSラボで生徒に絵手紙の描き方を教えていただくようにすれば、地域の方にとっては普段の学びを生かすことになり、中学生にとっても地域の方と関われる機会にできるという意図で計画した。生徒会環境福祉委員会に目的や内容を全校に周知してもらい、当日は約20名の生徒が絵手紙作りに参加した。



## 4 まとめ

### (1) 成果

- ① 地域の方と生徒とが直接話し、地域の方の多様な考えに触れる場を作った。
  - ・合同運営協議会での児童生徒と地域の方との小グループによる話し合い。
  - ・社協の方とのボランティア意識醸成のための「わたげ帳」作成。
- ② 「地域⇒学校」の一方向の支援でなく、「地域⇄学校」の双方向の協働活動を行った。
  - ・CSラボでの、モルック、かごづくりを通じた地域の方と生徒の交流活動
- ③ 社協との連携をきっかけに、生徒が自らの選択で地域でのボランティア活動に参加し、生徒の学びと地域貢献を行った。
  - ・諏訪市社協が主催するサマーボランティア参加
  - ・諏訪湖創生ビジョン推進会議「諏訪湖まるまるゴミ調査」ボランティア参加
  - ・CSラボでの環境福祉委員会、一人暮らしのお年寄りへの絵手紙プレゼント

### (2) 課題・次年度に向けた展望

- ① ボランティアの高齢化や不足が継続的な課題である。ボランティアにとって、学校に来ていただくことが負担を感じるものでなく、自身の楽しみにつながる活動となるよう内容を工夫していく。また、環境整備の取組などはPTAと連携できるか模索する。
- ② 活動が続くと運営の労力が軽減されるものの、マンネリ化しやすいため、活動を見直したり、目的を確認したりしながら進めていく。
- ③ ICTを活用することで、事務処理は簡略化されてきたが、情報共有が進められなかった。各団体の活動の様子を気軽に発信できるよう、各団体の代表者に伝えていく。